

東日本大震災とまちづくり

特集にあたって

東日本大震災から5年が経過しようとしている。「遅々として進まない復旧・復興作業」と報道されてはいるが、少しずつ被災地の状況は変わりつつある。われわれOTも、単なる仮設住宅支援活動からまちづくり、地域づくりへの関与が求められる。

今回、5名の方々にそれぞれの立場での報告をお願いしたわけがあるが、まちづくり、地域づくりにおいては、皆さん共通して、何かをしてあげるという意識から始まるのではなく“隣人を知ること（中村氏）”、“地域の方々とよく話し、足を運び、顔を知っていただき、そして知ること（高梨氏、菅原氏）”等の、“地域の人たちとの実際の泥臭いかかわり（大貫氏）”こそが重要だと述べていることが興味深い。逆に“その地域の現状を知らない”ということが、どれほどその地域の人々を傷つけるか（中村氏、清山氏）を理解しなければならないと、つくづく考えさせられる。

奇しくも今、日本は地域包括ケアシステムの構築に向けて動きはじめている。今回の報告は、復興支援という枠組みにはなっているが、地域づくり、まちづくりの基本ともいえる、根本的なことを考えさせられる内容になっている。単に被災地の話として読まれるのではなく、皆さんの地域での話に置き換えてご一読いただければ幸いである。

（長谷川敬一）

企画担当

長谷川敬一（竹田綜合病院，作業療法士）

中村春基（一般社団法人 日本作業療法士協会，作業療法士）

香山明美（宮城県立精神医療センター，作業療法士）